

Ⅲ その他の共通技術

1 漏生イネ（こぼれ粃）対策

次年度、主食用品種を作付けする場合、異品種の混入を防ぐため、漏生イネの発生を防止する対策が必要である。

（1）収穫直後の対策

- 1) 収穫後直ちに耕うんし、圃場にこぼれた粃を土中に鋤き込み、収穫後から10月までの間、水尻を閉めて、雨水により土壤水分を高める。
- 2) 気温が比較的高い9月～10月に、こぼれ粃の発芽を促して冬の間枯死させるほか、腐敗させて発芽能力を失わせる。

（2）翌年の代かき作業、除草剤処理及び漏生イネの抜き取り

- 1) 荒代かきを早めに行い、越冬したこぼれ粃の発芽を促し、移植前の植代かきで土中に埋没させる。
- 2) 植代かきは、残存するこぼれ粃の出芽が揃うようになるべく遅く行い、埋没効果を高めるため、浅水で行う。
- 3) 植代かき後、漏生イネの防除に効果の高い成分（プレチラクロール、ブタクロール、ペントキサゾン、テニクロール）を含む初期剤を適正に使用する。除草成分の流出を防ぐため、除草剤処理後7日間は田面水を排出しない。
- 4) 出穂期以降、粃の形などから漏生イネ発生の有無を確認し、漏生イネが発生した場合は抜き取り、収穫物への混入を防ぐ。

2 自家採種方法

（1）注意点

品種登録されている品種では、自家採種した種子を有償無償にかかわらず他者に譲渡することはできない。

（2）種子に必要な要件

- 1) 十分な発芽力があること
- 2) 病気に感染していないこと
- 3) 播種作業の妨げとなるゴミを含まないこと
- 4) 使用量に対して十分な量があること

（3）採種の留意点

1) 収穫

ア 次年度使用する種子の播種量を作付10a当たり4kg以上は確保する。塩水選等の選別により相当量が失われることを考慮しておく。

- イ 出穂期が近い他品種が隣接していないほ場またはほ場の中心部から採種する。
- ウ 病害や倒伏のないほ場から収穫した粃を種子とする。特にばか苗病やシンガレセンチュウは種子伝染するので、発生ほ場の粃の利用は避ける。なお、「ばか苗病」菌は空気感染し粃に付着するので、採種用ほ場から、100m以内に本病の罹病株がないこと。また、採種用ほ場から、100～200m以内に、本病が中発生以上（6株以上／100株）のほ場がないことを確認して採種する。
- エ 適期（帯緑色粃歩合15%）収穫し、高水分状態の粃（含水率25%以上）は収穫しない。また、雨上がりなど、粃がぬれている状態での収穫は発芽率が低下するので避ける。
- オ コンバインのエンジン回転数は主食用品種を収穫する場合よりも15%低くし、粃の損傷を抑える。

2) 乾燥・保管

- ア 刈取り後、炎天下に放置しない。
- イ 乾燥機への張込み後、追加張込み等のため加熱乾燥までに時間のかかるときは必ず通風循環させておく。
- ウ 種子用の乾燥方法を指定できる乾燥機では種子用に設定する。遠赤外線乾燥機の場合は急激な乾燥により発芽率が低下する場合があるので設定に注意する。
- エ 乾燥時の送風温度は、外気温+5℃で粃水分を18%まで下げ、その後40℃で粃水分14.5%に仕上げる。毎時0.5～0.6%程度の減水率が安全である。細かな設定が出来ない場合は、通風乾燥により粃水分を20%程度まで低下させてから加熱乾燥する。
- オ 来春の使用時まで、低温で乾燥した場所に保管する。ねずみ害にも注意する。

3) 選別・その他

- ア 播種作業の妨げとなる芒（のげ）、枝梗、ゴミ等は脱芒機により除去する。
- イ 塩水選により、罹病粃、未熟粃等を除去し、充実した健全粃を選別する。
- ウ 可能であれば、播種前に発芽試験を行う。
- エ 品種の切替え時には機械類の清掃を丁寧に行い、混種を防止する。
- オ 「ばか苗病」が発生した粃を取り扱った機械や作業場には「ばか苗病」の菌が付着しているので注意するとともに、種子として使用する場合は効果の高い薬剤による種子消毒を確実に実施する。

3 鉄コーティング直播栽培

(1) 塩水選優良種子を準備

飼料用イネ品種を自家採種した場合、未熟種子が混入している可能性があるの
で、塩水選で優良種子を確保する。

(2) 発芽試験で発芽勢を確認

品種によっては休眠が深い場合は、発芽や出芽の揃いが悪くなる危険があるので、
発芽勢を確認し、休眠覚醒が不十分な場合は、「Ⅱ-2-(1)-1」種子の確認と対
処法の項目を参考にする。また、播種量を増やす、播種時期を遅らせる等を検討する。

(3) 浸種の水温は10℃以上

浸種は水温 10～15℃、積算温度 40～60℃を目安とする。

(4) コーティング作業は従来法を順守する。

(5) 植代かきと播種前の落水

植代かきから播種までの日数は移植栽培より長めとし、播種前日に落水するな
どして、植代かきはやや硬めとする。

(6) 苗立ち数と播種量の目安

1) 苗立ち数は、100 本/m²を目標とする。播種量は、大粒の品種では 4～5 kg
/10 a、その他の品種では 3～4 kg/10 a を目安とする。

2) 「べこあおば」、「ホシアオバ」等の大粒品種は、播種機によっては設定ど
おりの播種量を落とせない場合がある。事前に一定の距離を走行させ、種籾の
落下量を確認して、開度等を調整する。

(7) 播種時期

播種時期が早いと気温が低いために出芽まで時間がかかり、腐敗等が発生して
苗立ち率が低下する。播種の早限は、播種日以降の平均気温が 15℃以上であるこ
とが望ましい。

(8) 除草剤処理と播種後の水管理

播種と同時に除草剤を散布し、播種終了後に静かに入水する。入水後は強制排水
することができないので播種後の入水は4日程度で自然落水する浅水とし、出芽
が揃うまでは落水状態を保ち、土壤が乾くようであればヒタヒタ程度に入水する。

(9) 生育ステージの違いを考慮した品種及び圃場の選定

- 1) 直播と移植を同日に行った場合、直播栽培の収穫時期は移植栽培と比べ2週間程度遅くなるため、主食用米品種の収穫作業と競合しないように品種構成を考える。
- 2) 収穫時期の遅れによる用水不足にならないように作付ける圃場を選定する。

(10) 施肥量

堆肥連用を前提とした場合、塩安等の単肥で、窒素成分を基肥 5～6 kg/10 a、穂肥 2～3 kg/10 a を目安とする。

(11) 雑草及び病虫害防除

- 1) W C S 用イネ及び直播栽培に登録のある薬剤は限られるので注意する。
- 2) 使用上の注意は、移植栽培に準じる。

IV 参考文献

【I 飼料用米】

- ・ 水稲の早期栽培における超多収品種の多収要因の解析 (1994). 千葉県農業試験場研究報告
- ・ 試験研究成果普及情報「低温期における水稲の浸種法」(2005). 千葉県、千葉県農林水産技術会議
- ・ 水稲新品種「夢あおば」の育成 (2006). 中央農業総合研究センター研究報告
- ・ 試験研究成果普及情報「飼料用米の採卵鶏への利用」(2009). 千葉県、千葉県農林水産技術会議
- ・ 試験研究成果普及情報「飼料用米の品種比較給与試験」(2009). 千葉県、千葉県農林水産技術会議
- ・ 研究成果情報「育苗器を利用した水稲種子の休眠打破方法」(2010). (独) 農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センター
- ・ 水田における飼料用稲の生産利用技術の確立－研究成果集－ (2012). 千葉県農林総合研究センター
- ・ 試験研究成果普及情報「飼料用米向け水稲品種「べこあおば」の千葉県における栽培特性」(2012). 千葉県、千葉県農林水産技術会議
- ・ 試験研究成果普及情報「飼料用米専用品種「べこあおば」の低コスト多収生産技術」(2012). 千葉県、千葉県農林水産技術会議
- ・ 米とワラの多収を目指して 2013 －飼料用米、稲発酵粗飼用品種－ (2013). (独) 農業・食品産業技術総合研究機構作物研究所、農林水産省農林水産技術会議事務局
- ・ 飼料用米専用品種「べこあおば」の特性と栽培方法 (2013). 千葉県、千葉県農林水産技術会議
- ・ 飼料用米向け水稲品種「べこあおば」の千葉県における栽培特性 (2013). 千葉県農林総研研報
- ・ 窒素の施用法が千葉県における飼料用米向け水稲品種「べこあおば」の生育及び収量に及ぼす影響 (2013). 千葉県農林総研研報
- ・ 飼料用米生産のポイント (2014). 千葉県農業再生協議会
- ・ 試験研究成果普及情報「粳給与がブローラーの発育に与える影響」(2014). 千葉県、千葉県農林水産技術推進会議
- ・ 試験研究成果普及情報「破碎粳米は交雑種肥育牛に給与する配合飼料の 40%ま

- で置き換えできる」(2016). 千葉県、千葉県農林水産技術会議
- ・多収品種に取り組むに当たって—多収品種の栽培マニュアル— (2016). 農林水産省
- ・飼料用米生産コスト低減マニュアル (2016). 農林水産省
- ・試験研究成果普及情報「窒素施肥に活用できる簡易な水田土壌可給態窒素含量推定法」(2016). 千葉県、千葉県農林水産技術会議
- ・飼料用米の生産・給与技術マニュアル<2016年版> (2017). (国研) 農業・食品産業技術総合研究機構
- ・飼料用イネの栽培と品種特性 (2017). 日本草地畜産種子協会
- ・平成28年度試験研究成果発表会(作物部門)資料「飼料用米の安定多収栽培のポイント—多収品種「アキヒカリ」、「夢あおば」を導入して収量アップ—」(2017). 千葉県、千葉県農林水産技術会議
- ・平成28年度試験研究成果発表会(養鶏部門)資料「飼料用米の給与形態や配合割合の違いが採卵鶏の産卵性や卵質に及ぼす影響」(2017). 千葉県、千葉県農林水産技術会議

【Ⅱ W C S用イネ】

- ・試験研究成果普及情報「ホールクロップサイレージ向けとして有望な飼料イネ専用品種の選定」(2009). 千葉県、千葉県農林水産技術会議
- ・稲発酵粗飼料の生産・利用マニュアル (2010). 千葉県地域検討会
- ・研究成果情報「育苗器を利用した水稻種子の休眠打破方法」(2010). (国研) 農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センター
- ・W C S用イネ育苗のポイント (2012). (一社) 日本草地畜産種子協会
- ・試験研究成果普及情報「ホールクロップサイレージ(W C S)用の飼料イネ有望品種の特性」(2012). 千葉県、千葉県農林水産技術会議
- ・米とワラの多収を目指して2013—飼料用米、稲発酵粗飼料用品種— (2013). (国研) 農業・食品産業技術総合研究機構作物研究所、農林水産省農林水産技術会議事務局
- ・試験研究成果普及情報「飼料イネ専用品種の収量性とサイレージ品質からみた収穫時期」(2013). 千葉県、千葉県農林水産技術会議
- ・試験研究成果普及情報「飼料イネ専用品種の収穫時期別消化性からみた飼料価値」(2013). 千葉県、千葉県農林水産技術会議
- ・試験研究成果普及情報「糊熟期に収穫したイネW C Sでも黄熟期と変わらない乳生産が可能」(2013). 千葉県、千葉県農林水産技術会議

- ・ 稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル第6版（2014）.（一社）日本草地畜産種子協会
- ・ 稲WCS栽培暦（香取市版）（2014）. 香取農業事務所
- ・ 飼料用米の生産・給与技術マニュアル＜2016年度版＞（2016）.（国研）農業・食品産業技術総合研究機構
- ・ 飼料用イネの栽培と品種特性（2017）. 全国飼料増産協議会
- ・ 平成28年度試験研究成果発表会（作物部門）資料「WCS用茎葉型品種による作期分散と多収栽培のポイント」（2017）. 千葉県、千葉県農林水産技術推進会議

【Ⅲ その他の共通技術】

- ・ 鉄コーティング湛水直播栽培・概要と栽培のポイント. JA全農ちば（2015）
- ・ 水稻の採種栽培 第3版（2016）. 千葉県

V 栽培暦（別紙）

- ・ 飼料用米品種の栽培暦
- ・ 泌乳牛向け・WCS用イネ品種の栽培暦
- ・ 肥育牛向け・WCS用イネ品種の栽培暦

多収品種「アキヒカリ」、「夢あおば」を中心とした飼料用米栽培暦

平成30年3月 千葉県

栽培暦1 「ちば28号」を利用して主食用品種の前に収穫する場合の作付体系

月	4			5			6			7			8			9		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
飼料用米 ちば28号	代かき ・基肥 施用			← 除草剤散布 →			幼穂 形成 期 ・穂肥	← 紋枯病等防除 →	← 低温時は深水 →	← カメムシ防除 →			成熟期					
主食用 コシヒカリ		移植					幼穂 形成 期				出穂期			成熟期				

栽培暦2 多収品種「アキヒカリ」を利用して主食用品種の後に収穫する場合の作付体系

月	4			5			6			7			8			9		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主食用 ふさおとめ		移植					幼穂 形成 期				出穂期			成熟期				
ふさこがね		移植					幼穂 形成 期				出穂期			成熟期				
多収品種 アキヒカリ			代かき ・基肥 施用	← 除草剤散布 →			幼穂 形成 期 ・穂肥	← 紋枯病等防除 →	← 低温時は深水 →	← カメムシ防除 →			成熟期					

注) 安房・東京湾沿岸南部地域は5月上旬から移植可

栽培暦3 多収品種「夢あおば」を利用して飼料用米を主食用品種の後に収穫する場合の作付体系

月	4			5			6			7			8			9		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主食用 ふさおとめ		移植					幼穂 形成 期				出穂期			成熟期				
ふさこがね		移植					幼穂 形成 期				出穂期			成熟期				
コシヒカリ		移植					幼穂 形成 期				出穂期			成熟期				
多収品種 夢あおば			代かき ・基肥 施用	← 除草剤散布 →			幼穂 形成 期 ・穂肥	← 紋枯病等防除 →	← 低温時は深水 →	← カメムシ防除 →			成熟期 (立毛 乾燥)					

栽培暦4 多収品種「アキヒカリ」及び「夢あおば」を中心として作付面積の大半を飼料用米とする場合の作付体系

月	4			5			6			7			8			9		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
飼料用米 ちば28号	代かき ・基肥 施用			← 除草剤散布 →			幼穂 形成 期 ・穂肥	← 紋枯病等防除 →	← 低温時は深水 →	← カメムシ防除 →			成熟期					
多収品種 アキヒカリ			代かき ・基肥 施用	← 除草剤散布 →			幼穂 形成 期 ・穂肥	← 紋枯病等防除 →	← 低温時は深水 →	← カメムシ防除 →			成熟期					
多収品種 夢あおば			代かき ・基肥 施用	← 除草剤散布 →			幼穂 形成 期 ・穂肥	← 紋枯病等防除 →	← 低温時は深水 →	← カメムシ防除 →			成熟期 (立毛 乾燥)					
多収品種 北陸193号※			代かき ・基肥 施用	← 除草剤散布 →			幼穂 形成 期 ・穂肥	← 紋枯病等防除 →	← 低温時は深水 →	← カメムシ防除 →			成熟期は 10月中旬 →					

※「北陸193号」はわらの量が多いため、収穫作業時のコンバインへの負担に注意する

【育苗】

- ◆種子消毒 糸状菌による苗立枯病、ばか苗病、細菌病を防ぐために、徹底して行う。
- ◆浸種 水温は10～15℃で、積算温度120℃を目安に行う（低水温や高水温は発芽障害や病害発生を助長するため避ける）。
- ◆播種 主食用米と同様に催芽を行い、ハト胸状態として播種する。播種量は、粒の大きい「夢あおば」では多めとする。
（1箱当たり播種量の目安 「アキヒカリ」：乾籾重140g・催芽籾重175g程度、「夢あおば」：乾籾重160g・催芽重200g程度）
- ◆育苗管理 育苗器による出芽を基本とする。積重ね又は平置き無加温出芽を行う場合は、気象条件に応じた温度管理を行う。特に、4月下旬から5月に育苗する場合は高温（床土温度30℃以上）とならないように注意する。

【施肥】

- ◆堆肥施用 家畜ふん堆肥の連用による肥沃度の向上と、資材の低コスト化を進める。
※種類別の堆肥施用量の目安 牛ふん堆肥：1～2t/10a、豚ふん堆肥：300～1,000kg/10a、鶏ふん堆肥：250kg/10a
- ◆基肥 圃場の肥沃度と品種に応じた窒素成分を施用する。
壤土・・・「アキヒカリ」6kg/10a、「夢あおば」：9kg/10a ※家畜ふん堆肥を施用した場合は窒素成分で3kg/10a程度減量する
砂壤土・・・「アキヒカリ」9kg/10a、「夢あおば」：12kg/10a
粘土・・・「アキヒカリ」4kg/10a、「夢あおば」：6kg/10a（牛ふん堆肥は連用4年目以降）
※家畜ふん堆肥を施用した場合は、りん酸、加里成分の施用は省略でき、安価な窒素単肥のみの施用でよい。
- ◆穂肥 幼穂形成期頃に窒素成分で3kg/10aを施用する。なお、幼穂形成期の前に葉色が極端に低下した場合は穂肥の施用を早めるか、中間追肥を施用する。

【移植】

- ◆移植時期 「アキヒカリ」、「夢あおば」ともに耐冷性が弱いため、早期に移植すると幼穂形成期から出穂期間の低温感受性期に低温に遭遇する確率が高くなり、障害型冷害により減収するリスクが高まる。そのため、移植は5月中旬以降に行う。
- ◆栽植密度 坪当たり55株（株間20cm）前後とする。
※「夢あおば」は疎植栽培（坪当たり37～48株・株間23～30cm）が可能である。ただし、植付本数は標準どおりの4～6本/株とし、少なくしない。また、基肥・穂肥ともに所定の量を施用する。

【雑草防除】

- ◆除草剤 「稲」に登録がある薬剤を使用し、使用基準を順守する。
- ◆注意が必要な品種 「タカナリ」、「オオナリ」、「モミロマン」、「ミズホチカラ」では除草剤成分のベンゾピシクロン、テフリルトリオン、メソトリオンによる薬害が発生するため、これらの成分を含む薬剤は使用しない。

【病虫害防除】 籾で家畜に給与する場合は、出穂以降の農薬散布に注意（資料I-3-(6)23ページを参照）

- ◆いもち病 必要以上の多肥栽培はいもち病の発生を助長するので避ける。
- ◆紋枯病 常発圃場では予防的な防除を行う。また、茎葉が繁茂し、発生しやすい条件となるため、発生状況により防除する。
- ◆斑点米カメムシ 主食用品種と同様に防除する。特に、出穂期が周囲の圃場より早い、又は遅い圃場は加害を受けやすい。

【水管理】

- ◆出穂期前3週間、出穂期後2週間は湛水状態とする等の基本的な水管理は主食用米と同様とする。
- ◆幼穂形成期から出穂期までの期間が低温となった場合には、障害型冷害防止のため深水管理により保温に努める。

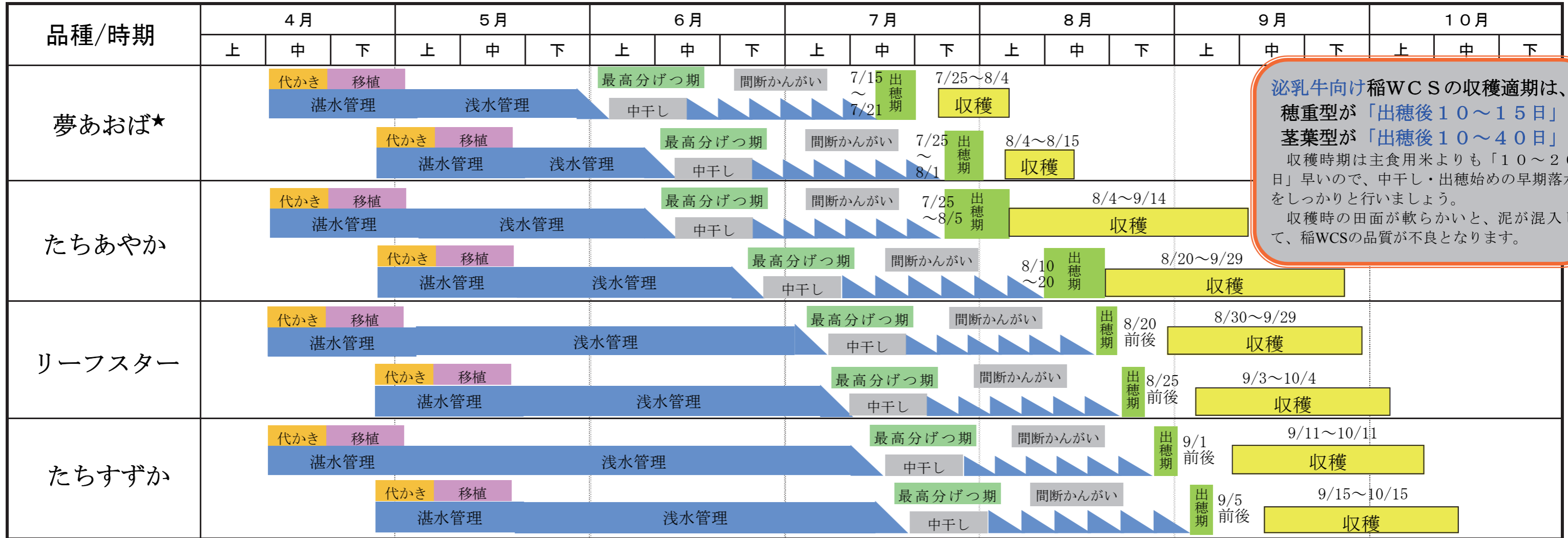
【収穫・乾燥・調製】

- ◆成熟期の目安 「アキヒカリ」は出穂期後約40日、「夢あおば」は出穂期後約45日（いずれも帯緑色籾歩合が15～20%の時とする。
※「夢あおば」では成熟期から一週間程度経過し、籾水分を低下させてから収穫する立毛乾燥が可能である。
- ◆収穫時の注意点 コンバインの負荷が大きい場合は刈り取り条数を減らす、又は刈り取り速度を遅くする。
- ◆乾燥の仕上げ水分 主食用米と同様とする。
- ◆籾すり 粒の大きい品種ではロール幅を広げるとともに、選別部が回転式の籾すり機では玄米と籾の選別精度が劣るため、揺動式の籾すり機を用いる。

各栽培暦の生育ステージは平成27～29年の千葉市及び香取市の平均値。

泌乳牛向け・WCS用イネ品種の栽培暦

各栽培暦の生育ステージは平成27～29年の千葉市及び香取市の平均値。



泌乳牛向け稲WCSの収穫適期は、
穂重型が「出穂後10～15日」
茎葉型が「出穂後10～40日」
 収穫時期は主食用米よりも「10～20日」早いので、中干し・出穂始めの早期落水をしっかりと行いましょう。
 収穫時の田面が軟らかいと、泥が混入して、稲WCSの品質が不良となります。

注1) 無印の茎葉型品種に比べ、★印を付けた穂重型品種は、収穫が遅れると子実の割合が多くなり泌乳牛向けWCSとしては品質が低下するので、適期収穫に努めてください。
 2) WCS用イネ栽培で使用する農薬は、農林水産省のガイドライン(稲発酵粗飼料生産・給与マニュアル)で決められた薬剤のみとなります。

育苗

◆播種量
 ・種粒が大きい品種は、播種重量を多くしてください。

品種名	播種重量の目安(g/箱)	玄米千粒重(g)
夢あおば, ちば28号(参考)	150～160	23～25
たちあやか, リーフスター, たちすずか	130～140	20～22

◆種子消毒
 ・家畜への安全性が確認されている薬剤で消毒しましょう。

◆浸種
 ・水温10～15℃で、積算温度120℃を目安に行う。
 (水温10℃未満での浸種は、発芽不良の原因となります。)

◆育苗管理
 ・WCS用イネ品種は低温にやや弱い特徴があります。
 ・好天が続く予報の日に播種し、日中は葉が焼けないように換気し、夜間は被覆を追加する等、保温に努めてください。

施肥

・稲わらも圃場外に持ち出すため、堆肥で窒素や加里を補給して下さい。以下は牛ふん堆肥2t/10aを4年以上連用した水田の施肥量です。

◆基肥
 砂壤土：窒素成分で9kg/10a
 壤土：窒素成分で6kg/10a

・堆肥を散布したほ場は、りん酸・加里が補給されているので、単肥(塩安など)だけの施用で十分です。(堆肥を施用できない場合は、りん酸・加里を含む肥料を施用して下さい。)

◆追肥
 窒素成分：3kg/10a

施用時期 ※最高分げつ期の葉色が濃い場合は出穂前30～20日
 葉色が低下した場合は出穂前50～30日

移植

◆栽植密度
 ※WCS用イネ品種は穂数が少ないので疎植は避ける！
 ・50株/坪(株間22cm)～55株/坪(株間20cm)
 ・植え付け本数 3～5本/株

◆植え付け時期 ※用水確保のため、植え付け時期は厳守！
 ・地域の用水の供給状況に応じた植え付け時期とします。
 ・晩生品種は、用水が確保できる水田に作付けして下さい。

雑草防除 ※稲WCSは、雑草が混入すると商品価値が下がります！

- ・雑草の繁茂によって減収となります。
- ・ノビエ等の水分含量の多い雑草の混入はサイレージ品質を低下させます。
- ・タカサブロウ、アメリカセンダングサ等の茎が堅い雑草の混入は、ラッピングフィルムの破損による品質低下や牛の嗜好性の低下の要因となります。
- ・上記以外の品種には薬害が生じるためベンゾピシクロン、テフリトリオン、メソトリオンを含む除草剤が使用できないもの(「モミロマン」等)があるので注意が必要です。
- ・水稲用に登録されている除草剤のうち、家畜への安全性が確認されている剤を使用してください。
- ・農薬の使用については、お近くの農業事務所等指導機関にご照会下さい。

病虫害防除 ※農薬の使用基準「収穫〇日前まで」の使用時期を守りましょう！

- ・苗立枯病等の防除のため、種子消毒、育苗用土及び育苗箱消毒を行います。
- ・予察情報と発生状況に注意し、収量や飼料品質の低下や、周辺圃場に影響を及ぼす危険が予想される場合は薬剤防除を行います。
- ・水稲用に登録されている殺虫・殺菌剤のうち、家畜への安全性が確認されている剤を使用してください。
- ・成分が同じでも剤型(粒剤,乳剤等)が違っていると使用できない場合があります。
- ・航空防除等による、周辺圃場からの薬剤のドリフトに注意しましょう。
- ・農薬の使用については、お近くの農業事務所等指導機関にご照会下さい。

肥育牛向け・WCS用イネ品種の栽培暦

各栽培暦の生育ステージは平成27～29年の千葉市及び香取市の平均値。

品種/時期	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
夢あおば	代かき 移植			湛水管理			浅水管理			最高分げつ期			間断かんがい			出穂期 7/15～21			8/9～30 収穫		
	代かき 移植			湛水管理			浅水管理			最高分げつ期			間断かんがい			出穂期 7/25～8/1			8/19～9/10 収穫		
たちあやか	代かき 移植			湛水管理			浅水管理			最高分げつ期			間断かんがい			出穂期 7/25～8/5			8/19～9/14 収穫		
	代かき 移植			湛水管理			浅水管理			最高分げつ期			間断かんがい			出穂期 8/10～20			9/4～29 収穫		
リーフスター	代かき 移植			湛水管理			浅水管理			最高分げつ期			間断かんがい			出穂期 8/20前後			8/14～9/29 収穫		
	代かき 移植			湛水管理			浅水管理			最高分げつ期			間断かんがい			出穂期 8/25前後			9/19～10/3 収穫		
たちすずか	代かき 移植			湛水管理			浅水管理			最高分げつ期			間断かんがい			出穂期 9/1前後			9/26～10/11 収穫		
	代かき 移植			湛水管理			浅水管理			最高分げつ期			間断かんがい			出穂期 9/5前後			9/30～10/15 収穫		

**肥育牛向け
稲WCSの収穫適期は、
「出穂後25～40日」**
水管理（中干し・出穂期後14日からの早期落水）をしっかりと行いましょう。
収穫時の田面が軟らかいと、泥が混入して、稲WCSが品質不良品となります。

注1) 収穫適期より早刈りすると、肥育牛向けWCSとしての品質が低下するので、適期収穫に努めてください。

2) WCS用イネ栽培で使用する農薬は、農林水産省のガイドライン（稲発酵粗飼料生産・給与マニュアル）で決められた薬剤のみとなります。

育苗

◆播種量
・種籾が大きい品種は、播種重量を多くしてください。

品種名	播種重量の目安(g/箱)	玄米千粒重(g)
夢あおば, ちば28号(参考)	150～160	23～25
たちあやか, リーフスター, たちすずか	130～140	20～22

◆種子消毒
・家畜への安全性が確認されている薬剤で消毒しましょう。

◆浸種
・水温10～15℃で、積算温度120℃を目安に行う。
(水温10℃未満での浸種は、発芽不良の原因となります。)

◆育苗管理
・WCS用イネ品種は低温にやや弱い特徴があります。
・好天が続く予報の日に播種し、日中は葉が焼けないように換気し、夜間は被覆を追加する等、保温に努めてください。

施肥

・稲わらも圃場外に持ち出すため、堆肥で窒素や加里を補給して下さい。以下は堆肥2t/10aを連用した水田の施肥量です。

◆基肥
砂壤土：窒素成分で9kg/10a
壤土：窒素成分で6kg/10a

・堆肥を散布したほ場は、りん酸・加里が補給されているので、単肥（塩安など）だけの施用で十分です。（堆肥を施用できない場合は、りん酸・加里を含む肥料を施用して下さい。）

◆追肥
窒素成分：3kg/10a
施用時期 ※最高分げつ期の葉色が濃い場合は出穂前30～20日
葉色が低下した場合は出穂前50～30日

移植

◆栽植密度
※WCS用イネ品種は穂数が少ないので疎植は避ける！

・50株/坪(株間22cm)～55株/坪(株間20cm)
・植え付け本数 3～5本/株

◆植え付け時期 ※用水確保のため、植え付け時期は厳守！

・地域の用水の供給状況に応じた植え付け時期とします。
・晩生品種は、用水が確保できる水田に作付けして下さい。

雑草防除 ※稲WCSは、雑草が混入すると商品価値が下がります！

- ・雑草の繁茂によって減収となります。
- ・ノビエ等の水分含量の多い雑草の混入はサイレージ品質を低下させます。
- ・タカサブロウ、アメリカセンダングサ等の茎が堅い雑草の混入は、ラッピングフィルムの破損による品質低下や牛の嗜好性の低下の要因となります。
- ・上記以外の品種には薬害が生じるためベンゾピシクロン、テフリトリオン、メソトリオンを含む除草剤が使用できないもの（「モミロマン」等）があるので注意が必要です。
- ・水稲用に登録されている除草剤のうち、家畜への安全性が確認されている剤を使用してください。
- ・農薬の使用については、お近くの農業事務所等指導機関にご照会下さい。

病虫害防除 ※農薬の使用基準「収穫〇日前まで」の使用時期を守りましょう！

- ・苗立枯病等の防除のため、種子消毒、育苗用土及び育苗箱消毒を行います。
- ・予察情報と発生状況に注意し、収量や飼料品質の低下や、周辺圃場に影響を及ぼす危険が予想される場合は薬剤防除を行います。
- ・水稲用に登録されている殺虫・殺菌剤のうち、家畜への安全性が確認されている剤を使用してください。
- ・成分が同じでも剤型（粒剤、乳剤等）が違っていると使用できない場合があります。
- ・航空防除等による、周辺圃場からの薬剤のドリフトに注意しましょう。
- ・農薬の使用については、お近くの農業事務所等指導機関にご照会下さい。

編集・執筆機関

担 手 支 援 課	専門普及指導室
農林総合研究センター	研究マネジメント室
	水稲・畑地園芸研究所 成東育成地
	// 水田利用研究室
	// 水稲温暖化対策研究室
畜産総合研究センター	企画環境研究室
	乳牛肉牛研究室

農薬に関する記述は、平成29年12月13日現在の「農薬登録情報」に基づいています。実際の農薬使用に当たっては、最新の「農薬登録情報」で登録内容を確認するとともに、農薬のラベルに表示された使用基準を遵守してください。

農林水産省農薬コーナー (<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>)
(一社)日本植物防疫協会 (<http://web1.jppn.ne.jp/member/>)

「私的使用のための複製」や「引用」など著作権法上認められた場合を除き、本資料を無断で複製・転用することはできません。

飼料用イネの栽培技術
《改訂版》

平成30年3月

発行 千葉県・千葉県農林水産技術会議

事務局 千葉県農林水産部担い手支援課技術振興室

〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1

TEL.043-223-2907 FAX.043-201-2615

